

「ムササビ」 についての施工報告

有限会社 関東消毒 田 中 孝 明

◎ 「ムササビ」 とは

ムササビは、ネズミ目リス科の哺乳類です。ご神木のような大木に住み着き、木から木へと飛膜を広げて飛び回ります。春と秋の年2回、1頭～2頭の子供を出産。近年の伐採や住宅の山間部進出等により個体数は減少傾向であり、一部都市ではレッドデータリストに指定されています。

◎立地背景

静岡県駿東郡小山町の山間部

小山町は山間部が多い町です。当該依頼主の立地は数十メートル級の森林を背後に背負い、また、家屋自体も「城」のように高さもある、大きな建物でした。

ムササビは大木の上部に営巣するので、今回のムササビは普段は近隣の大木上部に営巣し、出産時に家屋天井裏に入っているものと考えられます。

◎施工依頼

令和6年3月、天井裏で「ガリガリ」音がするとの事で訪問。聞き取りの中で、昨秋にも同じことがあり、他業者が天井裏を確認したところ「ムササビ」が出産しており、子供は外に移設し、侵入口をパンチングメタルで閉口した、との事でした。

3月の調査時に2階天井裏に入り、状況確認。※写真1のムササビ成獣1頭を確認しました。ムササビは動じず、全く動かない状況。その間に侵入口を確認。あまりに大きく、また、屋根上破風前の瓦屋根の勾配がきつく、外からの搜索を断念。2階天井裏を徹底的に確認しましたが、決定打に欠ける箇所ばかりでした。

そこで、やや強引ですが、追い出しスプレーにて追い出しを行い、追いかけて侵入箇所を見つけるといふ荒療治を決行。これが見事にハマリ、※写真2の、他業者が閉じたパンチングメタルの下を潜って逃げたことを確認しました。写真の通り、ムササビは6cm程度の高さでも侵入可能で、想像よりも低い高さで出入りできることがわかりました。



写真1



写真2



写真3



写真4

当該家屋の2階には破風が3箇所あり、それぞれの破風尻3箇所左右の計6箇所を、天井裏からパンチングメタルにて閉口強化し、閉口完了。

暗視カメラを3台設置し、経過観察を行うことに。

ここから約1か月半経過観察し、侵入が無い事を確認して施工を終了(同年5月)。

◎施工からの考察

- ①施主が聞いた「ガリガリ」音は、げっ歯類の為、ネズミと同じく歯を研いでいるものと思われます。削り痕の木材は大きく、※写真3のような形状・大きさでした。
- ②侵入口は写真2で示した通り、ハクビシン・アライグマよりも小さい口径で侵入可能なので、今回のような強引な捜索方法以外だと苦戦するかもしれません。また、そ族のように侵入可能箇所を削って拡大して侵入することも可能かと考えられます。尚、逃げ足はリスのように素早かったです。
- ③天井裏に敷き詰めてある断熱材の一部が引っ掻き回されておりました。出産・子育ての準備か、以前の出産時のものかもしれません。また、探したのですが、なぜか糞の確認はできませんでした。

◎まとめ

弊社としても、「ムササビ」の施工は初めての経験でした。個体がハクビシン等より小さく、高い箇所に営巣する為、今回のように2階の天井裏等に営巣した場合は、閉口作業等に苦戦する可能性があります。また、絶滅も懸念されている為、「捕獲」等の許可が下りる可能性も低いと考えられます。

恐らく、「ムササビ」の依頼は滅多に無いものと思われませんが、上記の経験が少しでもお役に立てれば幸いです。